氏名：齋藤　直紀

私が最も敬愛する建築家はE.G.アスプルンドである。今から二年前の夏、北欧への3週間の旅行の中でスウェーデンの森の墓地へ訪れ、そこで私のつたない建築の考え方は一蹴された。わかりやすくキュートなダイヤグラムやキャッチフレーズ、またそれとは逆に難解でクールなテキストたちも、この風景の前では無力であるように思えてしまった。それを経て私は現在建築設計において、都市的に大きく俯瞰する視点と、人間の身体の延長にあるような小さなスケールを生み出す視点の双方を捉えながら、敷地全体に多角的な眼差しを向けることが重要であると考えている。

また、私はこの4月から博士課程にて課題研究に取り組む傍ら、昨年12月に取得した一級建築士資格を活かし、研究室内の建築設計プロジェクトを通して実社会と関わり、将来は都市スケールと身体スケールを横断した実務設計を行える建築家として活躍の場を広げることを目指している。